

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町2-70
管理機関名 白い森人創生プロジェクトチーム
代表者名 山形県小国町長 仁科 洋一

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日(契約締結日)～令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 山形県立小国高等学校

学校長名 米野 和徳

類型 地域魅力化型

3 研究開発名 白い森人創生プロジェクト

4 研究開発概要

山形県立小国高等学校(以下「本校」という。)では、生徒が他地域との比較や地域の人々との関わり等を通じて自身の生活の場である小国町を理解するとともに、それらの活動を通じて見えてきた地域課題について解決策を検討して自ら実践する研究・学習活動(小国町での地域学習とキャリア教育とを複合させた研究・学習活動。以下「白い森学習」という。)を展開している。

本事業においては、小国町指定の保小中高一貫教育を一層活用し、本校における白い森学習を地域人材としての個性の確立を図る段階と位置づけるとともに、コンソーシアムである山形県立小国高等学校学校運営協議会(以下「学校運営協議会」という。)を活用し、地域の様々な主体と協働することにより、より効果的・実践的な取組に発展させる。白い森学習の一環として、地域の諸課題を研究テーマとして設定し、大学の研究者等や地域関係者からの協力・指導を得ながら研究を行う探究型の学習活動である「地域文化学」を総合的な学習(探究)の時間の中で実施している。現在1年次を対象として行われている地域文化学の名称を「白い森未来探究学」とし、これを3年間かけて2、3年次まで拡充するとともに、地元産業界等と提携してより地域に密着した実践的な研究活動に発展させる。また、教育課程外の取組においても、実践的な白い森未来探究学で得られた知見や経験を生徒の出発点とし、地元産業界等の協力の下、農林業に係る営利活動体験、企業発信型の長期間にわたるインターンシップへの参加など、地域に密着

した実践的なキャリア教育を行う。さらに、これらの過程において、大学との連携、ICTを活用した遠隔教育の導入、アントレプレナーシップ教育等により積極的に外部人材等を活用することで、生徒に地域内だけにとどまらない幅広い分野で新しい価値を提供できるカリキュラムを研究開発する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
岡崎 エミ	東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授	学識経験者
牛木 力	東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科専任講師	学識経験者
阿部 剛志	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社上席主任研究員	学識経験者

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
小国町	仁科 洋一（町長）
小国町教育委員会	遠藤 啓司（教育長）
山形県立小国高等学校	米野 和徳（学校長）
山形県教育委員会	菅間 裕晃（教育長）
山形県立小国高等学校同窓会	齋藤 弥輔（会長）
山形県立小国高等学校後援会	伊藤 明芳（会長）
山形県立小国高校学校PTA	佐野 裕之（会長）
小国町認定農業者協議会	大谷 健人（会長）
小国町森林組合	渡部 俊広（代表理事組合長）
クアーズテック株式会社小国事業所	岡島 博之（所長）
日本重化学工業株式会社山形事業所	相馬 秀之（所長）
小国町商工会	伊藤 通芳（会長）
学識経験者	安藤 耕己（山形大学地域教育文化学部教授）

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	岡崎 エミ	東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科准教授	謝金対応
地域協働学習支援員	渋谷 洋司	小国町統括的な地域学校協働活動推進員	小国町会計年度任用職員

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会					1回							1回
魅力化コア会議 (担当者会議)			2回	1回	1回	1回	1回	1回	1回		1回	
魅力化戦略会議 (管理職会議)				1回		1回			1回			1回
コンソーシアム会議		1回						1回				1回
白い森未来探究学 支援				1回 トークフォー ダンス			1回 小国巡り 事前研修		1回 1, 3年発 表会	1回 2年マイブ ロ発表会	1回 浸る講座 事前研修	
第4回全国高等学校小規 模校サミット支援							1回 ファシリテーショ ン研修	2回 OBOG及 び地域に よるケラ コ支援				
キャリア教育支援				1回 インターシッ プ受入							1回 若手社会 人との懇 談会	
小国☆地域みらい 塾の開催			1回	2回	1回			1回				
季の風(ときのか) 人材育成プロ ジェクトの開催						1回	3回	3回	1回			
魅力化評価アン ケート解説会									1回			1回

(2) 実績の説明

①運営指導委員会

今年度は、2回開催しており、1回目はテーマ別分科会を開催した。①教育課程、カリキュラム構築、②先進事例を参考とした探究授業の進め方、③魅力化評価アンケートを活用した教育効果測定及びその活用の3テーマに分かれ意見交換、委員から助言をいただいた。2回目は、3年間の当該事業のまとめ、今後の課題等について各委員からご指導いただいた。

②魅力化コア会議及び戦略会議

高校の地域との協働事業担当者、町教育委員会高校魅力化推進室(コーディネーター含む)、町総合政策課担当者の三者がほぼ毎月、白い森未来探究学等の授業内容や地域側の講師選定、生徒の交通手段など事務的な打合せを行っている。必要に応じて管理職等の会議である戦略会議を開催し判断、指導を受けた。

③コンソーシアム会議

当コンソーシアムは、小国高校の学校運営協議会と同じ体制であるため同日の会議開催となっている。地域との協働による高等学校教育改革推進事業の内容・進捗状況を説明し、理解をいただきながら事業展開してきた。

しかし、コンソーシアムが高校生の取り組みに積極的に協力する、という本来の機能が一部

しか発揮できなかったため、今後更なる体制の見直しや役割分担の明確化を進めていく必要がある。

④白い森未来探究学、全国高等学校小規模校サミット、キャリア教育への支援の実施

小国高校がカリキュラム構築している「白い森未来探究学」や生徒が主体的に実施しているサミットについて、地域の多様な人材や高校の OBOG に、トークフォークダンスや発表会の講評、マイプロジェクトの支援、グラフィックレコーディングの実施による協力を行ってきた。

また、キャリア教育においては、町内の企業や事業所、テレワーク実践者、マルチワーク実践者などに協力いただき、高校生のインターンシップを受け入れたほか、働くことを具体的にイメージできるよう若手社会人との懇談会「ハタラトーク！」を開催した。

⑤小国☆地域みらい塾、季の風（ときのか）人材育成プロジェクトの開催

両事業ともに、町の総合政策課において企画・実施している。高校生を含めた若者を対象とした連続講座で若者のアイデア創出の場となっている。みらい塾には高校生3名、季の風プロジェクトには高校生2名が参加した。特にみらい塾においては、その後の実践において10/10の補助金を予算措置しており、学んだことをすぐに実践できる環境をえている。

⑥魅力化評価アンケート解説会の開催

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社と（一財）地域・教育魅力化プラットフォームが共同で開発している高校の魅力化評価アンケートの読み取り方、活かし方について、運営指導委員の一人でもある阿部委員から解説いただき、生徒が成長した力の確認、高校生の学びに地域がどう関わっているかを読み取った。

さらに、小国高校のスクールミッションやスクールポリシーの策定、カリキュラム構築の方向性の確認に活かすとともに、今後の課題の抽出を行った。

⑦その他

小国高校では、令和5年度から部活動が廃止になることから、今年度新たにNPO法人おぐにスポーツクラブY u i と連携し試行的な取り組みを行った。具体的には当該スポーツクラブに高校生が加入し、スポーツクラブのメニューの中でバスケットボールを練習している。講師はスポーツクラブ職員（地域の講師）である。来年度以降、バスケットボール以外の種目についても検討を進めていく。

また、「山形県立小国高等学校を支援する会」においても、県外からの入学者募集や特色ある教育活動への支援を実施しており、今後も高校のニーズを見極めながら協力していく。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「国語」における地域での探究学習									1回			
科目「家庭」における地域・校内での探究学習				1回				2回		2回	2回	
科目「体育」における地域・校内での探究学習			1回							3回	1回	
科目「保健」における探究学習								1回	1回	1回	1回	
科目「英語」における地域での探究学習							1回		1回			
総合的な探究の時間における探究学習	1回	4回	5回	6回	2回	4回	4回	2回	5回	3回	4回	
「LHR」における探究学習	1回		2回	3回	2回	2回	3回	2回			4回	3回
課外活動における地域との協働活動	1回	1回	5回	5回	6回	8回	6回	7回	2回		2回	

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

1年時完結であった地域課題解決型探究学習を「白い森未来探究学」という総称で3年間取り組む学習に改編し今年度で3年目の完成年度である。1学年は「地域文化学」とし、興味・関心・意欲を高めることを目的に、地域内外の指導者による講義やフィールドワークをふだんに盛り込み、研究の方向性を見出す学習活動を行った。2学年は「地域実践学」とし、個々が設定した課題に基づき、具体的な調査、研究活動を行った。完成年度の3学年は「地域構想学」として2年時にまとめた成果から新たな提案を行い、3年間の総まとめとした。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、特別活動（LHR、学校行事等）の中で実施。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ教科等横断的な学習とする取組みについて

地域で活躍する方々の協力や地域内施設の活用による能動的な授業を積極的に行っている。ジェンダーに係る多様性、人権の問題など学際的な内容を国語科、環境問題、食や住居に関する内容を家庭科、地域の方々の指導による体験的スポーツ活動を通して地域の魅力発見につなげる授業などや安全活動などを保健体育科で実施した。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

地域課題の発見・解決を通し新しい価値観を創造することを基本理念に地域との協働による多様な活動を精力的に企画・実施した（総合的な探究の時間、授業、特別活動等）。座学だけでなく地域の外部講師との対話、協働活動や生徒が自ら校外に出ていくフィールドワークなどの活動を多く取り入れることで、自己と他者、地域との関わりを体験的に学ばせることを重視しながら、毎回振り返りの時間を設定し、学習内容のより深い定着を図った。

⑤成果の普及方法・実績について

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、地域の教育的イベントにおける発表や報告は行えなかったが、町報や新聞折込みによる町民への周知、地元ショッピングモールでの成果物の展示等を行った。また、町や探究活動の関係者、保護者などに対して校内での報告会を行ったり、オンラインで、他校生徒、教委育関係者への報告会も行った。

1 1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 進捗状況

高校魅力化評価アンケートの指標と、町内中学校から小国高校への進学率を参考にして進捗状況等を確認した。

アンケートによれば、小国高校が定める生徒の育てたい力「オグパワ7」（見つける力、行動する力、絶えず続ける力、認める力、伝える力、つながる力、考える力）は、いずれの指標も入学時より高位となっており明示的カリキュラムによる成果が現れていると判断できる。また、学びの土壌（非明示的カリキュラム）、いわゆる地域の状況についても他地域よりも多くの指標で高位となっている。当事業で成果目標とした項目に相当する指標は、大きな伸びは確認できなかった。

また、町内中学校から小国高校への進学率については、20~30%代を前後しているが、当事業で構築した白い森未来探究学が大きな魅力となっていること、さらに今年度から受け入れた「地域留学生」及び令和4年度から受け入れる県外からの入学者の影響により進学率が高まる可能性が出てきた。

(2) 成果

- ①当事業で構築した白い森未来探究学を軸とした成長実感のあるカリキュラムを開発できた。
- ②様々な研修や多くの地域の方、専門家に授業に参画・伴走いただいたことにより、「挑め、ともに！」が小国高校のスタイルとして浸透した。
- ③地域住民が高校の存在意義を再確認するとともに、関係人口や環流人口（OBOG）として小国高校に関わり続けていく人が増えた。

<添付資料> 目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

- (1) 生徒の成長実感を意識したカリキュラムの年次改良とグランドデザインの整理
- (2) 外部有識者とのつながりの継続（学び続ける教員・地域を継続する意識や価値を理解し、計画的に研修等を創出できる資金の確保）

- (3) 高校魅力化コーディネーターの十分な活用と高校・町の求める人材の継続確保
(4) コンソーシアムのあり方（生徒の興味・関心に応えるための機関としての実働性の強化）

【担当者】

担当課	教育振興課	T E L	0238-62-2141
氏 名	高橋 俊典	F A X	0238-62-2143
職 名	高校魅力化推進室長	e-mail	toshinori-t@town.oguni.yamagata.jp